

# 町長と語る

## トーク広場

第50回

### 生活者の視点で 災害に強いまちづくりを

～「はやま防災ネットワーク」が始動～

全国各地で大地震やゲリラ的な集中豪雨など、自然災害が相次いでいます。こうした中、万一の災害に備え、地域の防災力を高めようと、「はやま防災ネットワーク」が発足、活動を始めています。特に高齢者や障害者に配慮し「福祉的な視点から、災害に強いまちづくりを」と語る代表の西村哲夫さん、副代表の丸恭輔さんのお二人に、設立の目的や活動状況などを伺いました。

町長 「はやま防災ネットワーク」が発足して、ほぼ一年ですね。ネットワーク作りのきっかけは何ですか？  
西村 阪神淡路大震災以来、住民の視点をより大切にしたい災害に強いまちづくりが必要との認識が全国的に

高まり、多くの地域で災害ネットワークが設置されるようになりました。

葉山でもボランティアや市民団体などから「災害発生後だけでなく発生前にも備える住民主体の防災ネットワークを」との声が高まり、一年半に及ぶ準備・検討の後、昨年十月にネットワークを立ち上げました。

町長 会員数はどれくらいですか。  
丸 ボランティアやNPOグループや障害者の当事者団体、逗子葉山青年会議所など十団体、それに個人会員が二人です。発足してまだ日が浅く、PR活動もまだ十分でないために、会員はさほど多くありません。

町長 はやま防災ネットワークは、災害に強いまちづくりを進めるうえで、福祉的な視点からの助け合い・支え合いを重視されていますね。これはどういうことですか。

西村 大災害が起きた時によく問題になるのが、一人暮らしの高齢者や障害者など、ハンディキャップを持つ皆さんへの対応です。迅速な救出や避難誘導をどのようにするか。また避難所での生活においても、例えば車イスの人などへの配慮が必要になります。

そこで、葉山ではこれらの点を重視し、日ごろからの福祉的な視点からの助け合い・支え合いを強化すること、ハンディキャップを持つ人が安心して暮らせるまちづくりを目指しています。

町長 具体的にはどのような活動をされていますか。

西村 本格的にはこれからですが、既に防災講演会の開催やネットワークニュースの発行などをしました。今後は家具の転倒防止や家屋の耐震補強といった啓発活動、要支援者を事前に把握しておくための要支援者マップ作り、防災先進地域との交流など、様々な取り組みをしていきたいと思えます。今年中止になりましたが、町の総合防災訓練に障害者自身が参加し、当事者の視点で課題を洗い出す予定もありました。消防本部や町内会・自治会などもぜひ連携していきたいと思っています。

また、加入団体それぞれでも、救命救急講習会の開催や高齢者や障害者などへの防災アンケート、聴覚障害者への災害情報の伝え方など、日

常活動の中で当事者の視点で防災活動に力を入れています。

ただ、当事者グループに参加していない障害者や高齢者がまだまだ多くいらつしゃいます。そういう人をどう把握し支援するかも個人情報保護の観点から大きな課題です。

町長 日ごろから一人ひとりが地域や市民・ボランティア団体と協力し合って、サポート体制をしっかり確立しておく。とても大事なことだと思います。

西村 葉山町総合防災訓練などにも積極的に参加して、福祉の視点から、ふだん気づかない点や改善点など、防災上の問題提起もいろいろとしていきたいと考えているのですが。

町長 それはいい。ぜひ前向きな提言をお願いします。もちろん、町としても全面協力を惜しみません。

ところで、防災ネットワークとして困っていることはありませんか。  
丸 一番の悩みは、活動資金の確保です。そのため企業や商店などにも賛助会員として協力いただけるよう呼びかけていきたいと思っています。

町長 どんどんPRをして、会員の輪が大きく広がるといいですね。災害に強く、安全・安心なまちづくりは、行政にとっても最重要課題です。ともに手を携えて頑張りましょう。

問合せ はやま防災ネットワーク事務局（社会福祉協議会内）  
☎八七五―九八八九

